「三陸復興国立公園」利用者対応強化調査事業　第２回有識者会議
議事録

■日時：平成 25 月 3 月 6 日　9:55～12:00
■場所：宮城県庁　13 階会議室
■出席者：
＜有識者＞　浅利保（みやぎ観光復興支援センター）、熊谷嘉隆（国際教養大学教授）、笹岡達男（休暇村協会　常務理事）、宮原育子（宮城大学事業構想学部教授）
（敬称略・五十音順）
＜オブザーバー＞　三坂達也、清川雄司、村山寿一、関場智（宮城県環境生活部 自然保護課）
武澤隆寿（環境省 東北地方環境事務所 国立公園・保全整備課）
＜傍聴＞2 名
＜事務局＞　松井孝子、深沢久和、岩崎真希（株式会社プレック研究所）

■配付資料：
出席者名簿・座席表
資料１　宮城県におけるグリーン復興プロジェクト（骨子案）
資料２　シンポジウムについて
参考資料１　第 1 回議事録
参考資料２　地域の意見概要（ヒアリング調査結果）

■議事要旨：
宮城県におけるグリーン復興プロジェクト（骨子案）について事務局より説明を行い、有識者より以下の意見や提案があった。また、3 月 13 日に開催するシンポジウムについても確認を行った。

<u>①県立自然公園の国立公園への編入の可能性・課題、編入の効果</u>
・資源評価の手順については概ね妥当であり、国立公園への編入の可能性があることが分かった。
・複数の県立自然公園を一つの国立公園として再編するにあたり、繋がっていない地域同士をどう結びつけ、国立公園としてブランド化を進めていくかが課題である。キーワードは「復興」になると思うが、これだけ広い地域を一つの国立公園にするには、広報戦略が必要である。
・国立公園への編入を地域に説明するにあたって、一般的なメリット・デメリットだけではなく、被災地に特化した形で具体的に示した方が良い。
・高台移転など復興に向けたまちづくりの議論が進められている中で、国立公園への編入に向けた議論は、地域のアイデンティティを考える良いきっかけになるのではないか。

<u>②復興エコツーリズム</u>
・海外の利用者は日本人の絆や助け合いについて興味を持っているので、その内容をプログラムとして提供すると良い。質の高いプログラムとして利益を得る仕組み作りも重要である。

・南三陸町で行われているような大学との連携や企業研修の受入等を継続して展開し、若い人に来てもらうという観点で取組を行うことが、長く復興を進める上で重要である。
・被災地視察や支援ツアーは増えており、語り部等のプログラムに対する要望は多いので、上手くネットワーク化して提供できると良い。

③里山・里海フィールドミュージアム
④東北海岸トレイル
・フィールドミュージアムや東北海岸トレイルについては、地域毎に優先順位を検討し、整備に向けたロードマップを提示できると良い。
・トレイルについて、既に意味のある歴史街道等を組み込むという考え方は良い。また熱心な活動団体とも連携すべき。
・周遊してもらう上では、入口の施設だけでなく訪れた先でも他の地域の情報を得られるようにしておくことが重要である。

⑤拠点施設の整備
・環境教育や自然体験活動の拠点というだけではなく、避難誘導や防災用品の備蓄等、防災の拠点という面も考慮した方が良い。来訪者は安全対策を気にしている。
・施設の管理運営を考えた場合、官民が連携することによって、地域からの要望である物販機能等を上手く拠点施設に組み込んでいくことが必要である。
・質の高い物品の開発・販売を通じて地域振興に貢献するためには官民の連携が重要である。

⑥外国人対応
・Wi-Fi 環境の整備は外国人利用を考える場合に非常に重要である。